

小野市型 小中一貫教育の推進

1. 小中一貫教育のねらい

脳科学理論に基づく前頭前野の発達、成長の段階に応じ、9か年一貫した教育を展開することにより、国際社会の中でたくましく活躍できる心豊かで自立した人づくりをすすめる。

2 小中一貫教育のあゆみ

H16(2004) 河合プロジェクト 小中連携教育の開始。 「おの検定」の開始。

H17(2005) 市内全4中学校区で小中連携教育を推進。小学校高学年教科担任制の導入。
市内全小学校にALTを配置し、小学校英語活動の導入。
理科教育の充実へむけて、夏季理科実験実技講習会の開始。
「ほほえみアクションプラン」の策定。小中連携不登校対策会議の開始。

H18(2006) 全小学校でALT配置

H20(2008) 幼保・小・中連携を意識した「人権教育研究大会」の運営を開始。

ICT教育を核にした授業改革へむけた小中特合同の学力向上推進委員会の発足。

H21(2009) 学習指導要領改訂に伴う移行措置で、小学校5・6年外国語活動を円滑に実施。
「理科大好きときめきセミナー」(実験実技講習会)で中学校教員を講師に加える。

H22(2010) 市内全小学校で兵庫型教科担任制を一斉実施。

小中合同での理科教育推進委員会を設置。(理科教育ハンドブックの作成)

H23(2011) 小中連携し、児童生徒主体の授業づくりをめざす学力向上推進委員会の運営。
川島隆太教授講演会を5年生対象に「体験型講演会」として運営開始。

H24(2012) 「おの検定」(中学校英語)を開始。

H27(2015) 河合中学校区小中一貫教育の試行実施(小6の中学校舎登校開始)

H28(2016) 小野市全校区で併設型小中一貫教育校 スタート

3 小中一貫教育推進の5つの柱

(1) 教育目標へむけた、児童生徒の発達、成長に応じた教育の創造

(「脳科学と教育」「4・3・2の教育課程」、「理数教育・外国語教育の充実」)

(2) 小中のよさを生かし、一貫した教育を推進する組織体制の確立と意識改革

(「推進組織体制」「乗り入れ授業」「出前授業」「教科担任・多面的指導」「教師交流週間」
「合同研究授業」「不登校対策」「情報の水平展開」)

(3) 9か年連続性のある系統的な教育課程による児童生徒の学力向上

(「おの検定」「家庭学習のてびき」「学びの約束」「一貫カリキュラム」「授業改革」)

(4) 9か年連続性のある系統的な教育課程による児童生徒の社会性の育成

(「ふれあいの日」「合同行事(遠足・体育祭・文化祭・マラソン大会等)」「縦割り活動」
「生活のきまり」「早寝早起き朝ごはん」「スマホ・携帯の使用」)

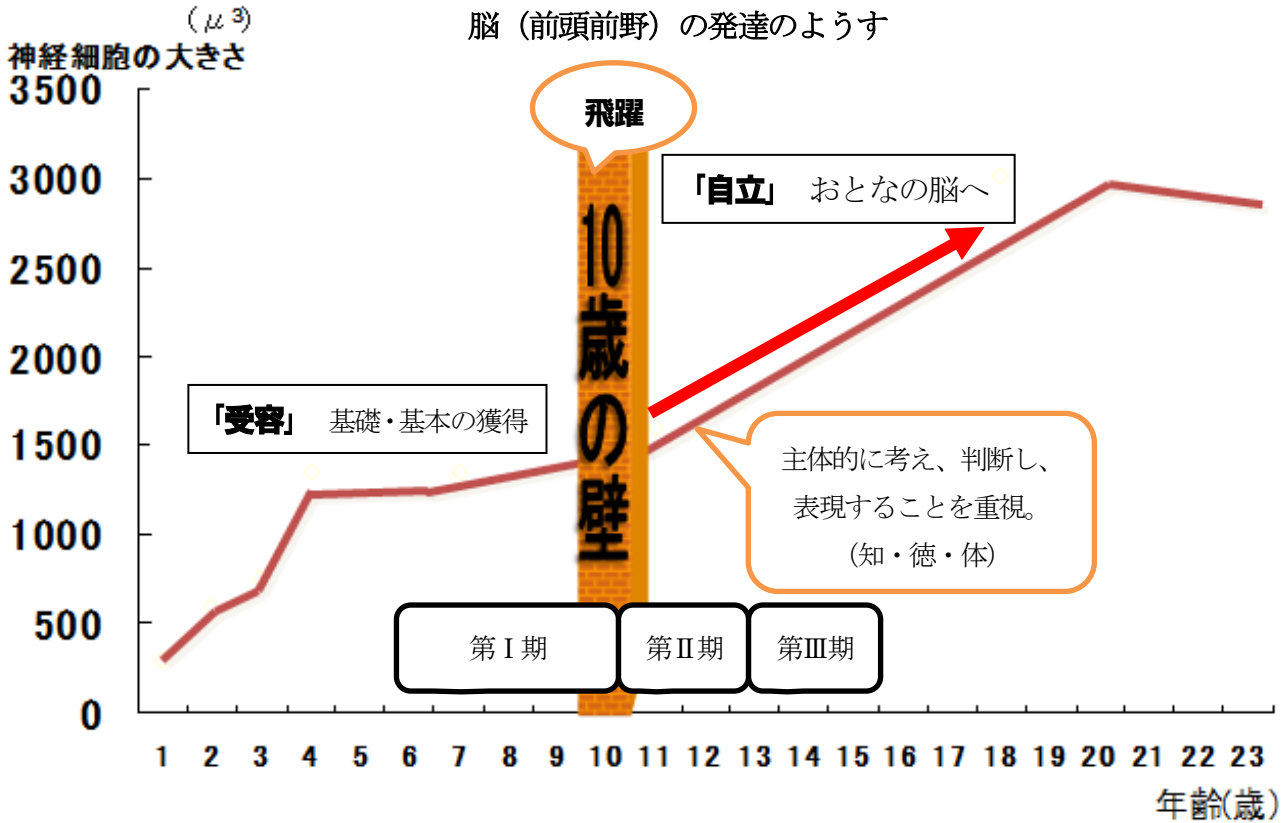
(5) 保護者・地域とともに、児童生徒の育成を進める小中一貫教育の推進

(「推進協議会」「リーフレット」「地域人材バンク」(ゲストティーチャー)「地域行事」)

教育目標にむかって、児童生徒の発達、成長に応じた教育の創造

(教育振興計画 基本理念)

国際社会の中でたくましく活躍できる心豊かで自立した人づくり



脳科学理論による前頭前野の発達も踏まえ、「4・3・2」の各成長段階に応じた9か年一貫した教育を展開し、学力だけでなく、心も体もバランスよく育みます。

(胎児・乳児・幼児期) -1歳～ 「16か年教育」の推進

- ① 第Ⅰ期(生きる力の基礎養成期)・・・1~4年生 学級担任制
児童が受容的で、生活・学習の基礎を固める重要な時期。
- ② 第Ⅱ期(おとなへの脱離)・・・5~7年生 教科担任制を段階的に導入
児童生徒が自立した考え方を始める時期。
教科内容が難しくなり、心理的にも揺らぎやすい時期。
～小中一貫教育で重点的に研究～
- ③ 第Ⅲ期(夢と希望に向かう自立期)・・・8~9年生 教科担任制
将来に対する目標をもち、夢と希望の実現へ向かう時期。

「早寝・早起き」
「バランスのよい食事」
「豊かなコミュニケーション」

「知りたい気持ち」
「わくわく感」

「目標意識」
(将来の夢や目標を強く意識)
「知的な好奇心」
(学ぶこと自体を楽しむ)